

でんでんむしのかなしみ
すべてきみに宛てた手紙
魔法があるなら
ゼブラ
デルトラ・クエスト 7
デルトラ・クエスト 8
アルケミスト
雪女
なみだ
先憂後楽
賢女小林ハル
蠟のいのち
白根市当初予算案
予算書
平成15年度
平成15年度
国連に行ってみよう
暇導犬
なぜ命はたいせつなの？
小学生のためのマイクロソフトワード 入門 1
月曜日に来たふしぎな子
ルーゼの星
大川わたり 1
大川わたり 2
大川わたり 3
知的財産権六法
NO MORE! 医療事故
身近に起きる医療ミス医療事故対処法
説明責任・内部告発
とやま家づくりの本 2003年度版 2003
作家たちのモダンイズム
築舞
おしゃれて着やすい介護服
きもの着ます。
手作りでお楽しみ季節の飾りもの
中谷真弓の作って遊ぼうエプロンシアター
はぎれ(端布)で作るかわい小物
散歩のときか食べたくなくて
ふ・ふ・ふのお麴レシピ
おいしい言葉食べる言葉ものしり事典

新美 南吉|著
長田 弘|著
アレックス シアラ|著
ハイム ボトク|著
エミリー ロンダ|著
エミリー ロンダ|著
パウロ コエリヨ|著
小泉 八雲|著
よしおか としみ|著
伊藤 孝二郎|著
賢女文化を顕彰する会|編
宮田 宏平|著
新潟県白根市|発行
新潟県白根市|発行
ナ―ネ アナン|著
こどもくらぶ|編著
こどもくらぶ|編
斎藤 洋一|著
ジェームズ リーズ|著
カーレン スーザン フェンセル
山本 一力|著
山本 一力|著
山本 一力|著
角田 政芳|編
中部日本放送報道部|著
医療過誤事例研究会|編
科学技術倫理フォーラム|編
黒田 智子|編
高田 清太郎|著
栗田 佐穂子|著
原 由美子|著
中谷 真弓|著
池波 正太郎|著
奥園 壽子|著
主婦と生活社|編

大日本図書
晶文社
PHP研究所
青山出版社
岩崎書店
岩崎書店
地湧社
倍成社
新風社
新潟日報事業社
新潟日報事業社
新潟日報事業社
新潟県白根市
新潟県白根市
自由国民社
すずき出版
ほるぷ出版
日経BPソフトプレス
岩波書店
求龍堂
カーレン スーザン フェンセル
山本 一力|著
山本 一力|著
山本 一力|著
角田 政芳|編
風媒社
平和出版
丸善
シー・エー・ピー
学芸出版社
新潟日報事業社
ブティック社
文化出版局
ブティック社
ブティック社
ブティック社
新潮社
創森社
主婦と生活社

一 図書館員がおすすめするこの一冊 一

「敗北を抱きしめて」上・下

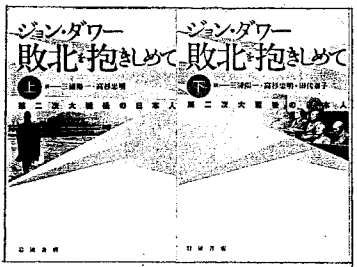
ジョン・ダワー／著 三浦陽一・高杉忠明・田代泰子／訳 岩波書店
(一般 210.7ダ)

戦後の復興期を書き記した本は多く出版されているが、これまで読んだものとまったく違った感じを受けた。日本の戦後史を外からの目で、しかし今までの外からと違って、アメリカの占領を受けた側の日本人の体験に基づいて語り直している。圧倒的なスケールと深さに驚きさえ覚えた。

本書の叙述の対象は、子どもから天皇まで、占領軍の下級兵士からマッカーサーにまで及ぶ。戦後民主主義や新憲法など、日本人はどのように受け入れ、自分たちのものにしてきたのか。占領期の有名な事件や、著名な人物、政治面での重要な問題のほとんどについて分析を行っている。しかも、綿密な史料分析で当時の日本の実像を浮かび上がらせ、結果的には現在の日本の成り立ちを知ることにもなる。

日本は、これまで国外から多くのものを受け入れてきた。それは、純粋にそのまま受け入れてきたのではなく、自分たちに合った形に造り替えて自らの生活の中に根付かせてきた。この手法は、今も変わることなく脈々と受け継がれている。

現代の日本は、明治維新や戦後復興期と同じくらいの大転換期を迎えていると言われてはいるが、いまだその進むべき方向を見出せず混乱の中にいる。行く末に思い惑うときほど、来し方をじっくり振り返る必要がある。「あるべき姿」を容易に想い描けない時代において、本書は貴重なよすがの一冊になると思う。また、質・量ともに読み応えのある本でもある。
(副館長 関根 律)



第二十八回読書会 二月二十三日(日)

「アリスの見習い物語」

カレン・クシユマン 作
柳井 薫 訳 (あすなろ書房)

♪♪ 窓からの日射しが心地よく、春の訪れを感じられたこの日、読書会に七人が集った ♪♪

桜子「この本を読書会で取り上げるきっかけは何だったんですか」

春香「子どもが進路のことで大変な思いをしているときに、『読んでごらん』と薦めたことがあるんです。いま改めて読み直してみると、どんな年代の人にも、これからどう生きて行こうかと考えるときにお薦めしたい一冊です」

歌子「物語の始まりでは、主人公の置かれた悲惨な状況に読んでいるこちらまで胸が痛みました。児童文学には珍しいタイプの本ですね。読み終えてみると、だんだんと自分の居場所を獲得していく少女の成長振りがとてもよく描かれていました」

菜々「中世イギリスの産婆さんの姿が忠実に描かれていて、ここにてでくるたくさんの栗草は全部実在するものなのかわかるといいですね。昔のお産は本当に命懸けだったんだなとも思いました。それと、主人公アリスの名づけのところで、いろいろと考えさせられましたね」

詩織「命の誕生に関わる仕事に就くって、凄いいことですよ。アリスが今まで知らなかった感情や夢をもつようになって成長していく姿、特に、自分で歌をつくって楽しそうに歌う場面に感動しました」

桜子「後半部で、アリスが産婆見習いという仕事に挫折して逃げ出してしまいますよね。私は、そのあとの展開が面白かったです。産婆のジェーンは、ずつと悪者だと思いついていたもので、意外な展開でした」

辰也「この本はアメリカの作家が書いたものですが、十四世紀の話です。イギリス文学といたって、当時の様子を描いています。児童文学といたって、どの子どもにも単に『面白いよ』と薦める本ではないですね。やはり中学生以上かな？主人公の成長の節目、節目がよく表されているし、その時代に生きた子どもたちのたくましさというものが伝わってきます」

葉子「孤児で名前がなかったから、始めはブラント(がき)、クナムシなんて呼ばれていたけれど、自分でアリスと名前をつけてから、ぐんとたくましくなってきましたよね。人間、名前がないとダメなんです」

菜々「私は、子どもの頃は自分の名前が嫌でした。でも、いま自分で自分の名前をつけていいってことになっても、思いつかない。もう私の名前は私自身になっているんです」

歌子「この本を読んで、本当に名前って大事ななんて思えますよね」

葉子「自分の居場所があるってことについても考えさせられました。いまの世の中では、どうなのかなって」

詩織「物語の中では、寝る場所を得て、名前をもって、最後には自分のやりたい仕事をみつけましたね」

歌子「たとお腹は満たされていなくても、生きていく実感がその中にあるんです」

辰也「私たちも仕事に限らず、何か自分にとって大事なことをもっていたいんですね」

桜子「さて、今日もいろいろな感想ができましたが、春香「はい、ますますこの本が好きになりました。これからもたくさんの方がこの本と出会いますように！」

♪♪ 次回の読書会は三月十六日(日) カニズバグの「クロロディアの秘密」です 参加をお待ちしています ♪♪